

# まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

## 「自己肯定感」について

明日24日をもって令和7年度が終わります。1年間、保護者の皆様には大変お世話になりました。本校の教育活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。明日は修了式を行います。「修了式」とは、その学年の教育課程を終えた区切りとして学年末に行う式典です。

本年度は、昨年度に引き続き「自己肯定感」を育むことを教育目標に掲げて指導を行ってきました。「わたしならできそうだ」「わたしには、わたしのいいところがある」「わたしは、今のわたしが好きだ」など、子どもたちは自分自身を肯定的にとらえることができているのでしょうか。太宰府小学校として精一杯頑張ってきましたが、十分にできたと胸を張るまでには至っていません。自己肯定感を育むことは、なかなか難しいと思っています。以下に PISA (2022年) の結果を示します。

### OECD (経済協力開発機構) が実施している PISA 調査 (国際的な学習到達度調査) の結果

※ 「PISA 調査」とは、義務教育終了段階の15歳の生徒がもっている知識や技能を測ることを目的にした調査  
<2022年度の平均得点の結果>

数学的リテラシー・・・日本は第1位

読解力リテラシー・・・日本は第2位

いずれも OECD加盟国内における順位

科学的リテラシー・・・日本は第1位

日本の生徒は、各分野においてトップレベルの成績を残しています。一方、以下のような課題が明らかになっています。

- 自分で自律的に学習することに対する自信が低い (自分で「計画」を立てて学習することに自信がない) 37カ国中34位
- 失敗を恐れる傾向 37カ国中最下位

日本の特徴は、成績はトップレベルにありながら、自分で何を・いつするか決めて学習することに自信がないと思っている子ども、失敗したらどうしようと心配が先に立ってしまっている子どもが多いということです。本校が教育目標に掲げている自己肯定感が諸外国に比べて低いという結果でした。

しかし、失敗を恐れず挑戦するところにしか発展は生まれません。大人がお膳立てし、コントロールするばかりではなく、子どもたちにもっと「任せる」必要を感じます。そこで、春休みの宿題ですが、6年生についてはプリントが配られています。1年生から5年生については、いつもの宿題とは違うやり方で出しています。一律に決まった課題とするのではなく、子どもが何をするか選択できるようにし、家庭学習の時間とともに、何を学習したのか記録するようにします。一つの試みですが、家庭学習の習慣をつけることを目的として、子ども自身が何をするか決めるという宿題の出し方に出しています。次年度、引き続き、子どもたちの自己肯定感を育むよう取り組んでまいります。保護者の皆様のご理解とご協力をいただけたら幸いです。

- 本日、本年度末をもって他校へ異動する職員、本年度末をもって退職する職員を、校内放送で紹介しています。異動先等の詳細は、学校だより4月号でお知らせします。
- 次年度の下校時刻が変わります。「うめのみ」3月号に掲載しています。ご確認をお願いします。